

英語科目の履修モデル

8単位を英語科目のみで履修する場合の**推奨例**(楽理科・音楽環境創造科を除く)

英語の履修パターンはいくつも考えられます。ただし、レベルを段階的に履修することが求められるため、以下の表において上から順番に、半期に1単位ずつ履修していくことを推奨します。ただし、卒業までに必要単位を早めに取得したいなど、それぞれの事情がある場合は、以下に従う必要はありません。(たとえば、「英語上級」を一度に複数履修することは可能です。)その場合は、各自が履修規則に従っているか確認してください。履修便覧を熟読し、自分に合った履修計画を立てることが重要です。

パターン①：主に英語に自信がない皆さんへ

科目名	単位
英語初級Ⅰ	1
英語初級Ⅱ	1
英語中級Ⅰ	1
英語中級Ⅱ	1
英語上級Ⅰ	1
英語上級Ⅱ	1
英語上級Ⅰ (既修の上級Ⅰとは異なるクラス a～d でなければならない)	1
英語上級Ⅱ (既修の上級Ⅱとは異なるクラス a～d でなければならない)	1

パターン②

科目名	単位
英語中級Ⅰ	1
英語中級Ⅱ	1
英語上級Ⅰ	1
英語上級Ⅱ	1
英語上級Ⅰ (既修の上級Ⅰとは異なるクラス a～d でなければならない)	1
英語上級Ⅱ (既修の上級Ⅱとは異なるクラス a～d でなければならない)	1
英語演習Ⅰ	1
英語演習Ⅱ	1

パターン③

科目名	単位
英語中級Ⅰ	1
英語中級Ⅱ	1
英語上級Ⅰ	1
英語上級Ⅱ	1
英語演習Ⅰ	1
英語演習Ⅱ	1
英語演習Ⅰ	1
英語演習Ⅱ	1

※「英語中級Ⅰ・Ⅱ」、「英語上級Ⅰ・Ⅱ」、「英語演習Ⅰ・Ⅱ」については、「言語・音声トレーニングセンター開設科目」での修得も可能。ただし、振り替えられる単位の上限が決まっているので、『履修便覧』16頁の表を必ず確認すること。

英語履修のQ&A

- Q1: 「英語初級Ⅰ」と「英語初級Ⅱ」の同時履修は可能でしょうか。
- A: できません。初級と中級は、Ⅰ→Ⅱの順番に履修し、ⅠとⅡの両方を修得した上で卒業要件単位として認められます。従って、中級も同様に、「英語中級Ⅰ」と「英語中級Ⅱ」の同時履修はできません。
- Q2: 「英語初級Ⅰ」「英語初級Ⅱ」を、年度をまたいで履修したいのですが。。
(例:1年次の前期に「英語初級Ⅰ」を履修、2年次の後期に「英語初級Ⅱ」を履修)
- A: 問題ありません。Ⅰ→Ⅱの順番であれば、必ずしも連続して履修しなくてもいいです。ただし、4年間の履修計画はあらかじめきっちり立てておいてください。
- Q3: 「英語初級Ⅰa」「英語初級Ⅱb」というように、それぞれ別の先生のクラスを履修してもいいのですか。
- A: OK。Ⅰ→Ⅱの順番であれば、アルファベットに関係なく別のクラスでも履修できます。
- Q4: 「英語上級Ⅱ」→「英語上級Ⅰ」の順で履修することはできますか。
- A: これはできます。上級クラスは、Ⅰ、Ⅱの連続性がないので、履修の順番は問いません。また、「Ⅰ・Ⅱの両方」ではなく、「Ⅰを2クラス」、「Ⅱを2クラス」履修してもいいです。
- Q5: 「英語中級」の単位を持っていません。「英語上級」は履修できますか。
- A: 履修できません。(ただし、楽理科と音楽環境創造科はこれに当てはまりません。)
言語芸術開設科目の上級は、中級の単位を修得済みでないと履修できません。履修登録しても、最終的には削除されてしまいます。また、中級の単位を修得していない場合、中級と上級の同時履修もできません。
- Q6: 「英語上級」の単位を持っていないが、「英語演習」を履修することはできますか。
- A: 担当教員の許可を得た場合のみ、履修できます。演習は、文学や評論などを読む力が必要なため、上級の単位を修得済みであることが望ましい科目ですが、担当教員がOKとさえ履修してください。チャレンジも必要です！
- Q7: 言語芸術開設の「英語中級」をとりながら、音トレ開設の「英語会話(中級)」をとり、1年次に4単位とることはできますか。
- A: 以下のような履修の組み合わせは可能です。
「英語中級Ⅰ」「英語中級Ⅱ」(各1単位)
「英語会話(中級)Ⅰ」「英語会話(中級)Ⅱ」(各1単位)
ただし、学部の卒業要件単位として認められる単位は各1単位までです！！
つまり、上記の4単位修得しても、卒業にはこのうち2単位までしか認められません。
言語芸術開設の科目と音トレ開設の科目を組み合わせる場合は、細かな条件があります。各自よく注意し、不明なことがあれば言語芸術研究室に相談してください。

2020 年度に寄せられた質問とその答え(Q&A)も紹介します!

Q1: 「英語初級」と「英語中級」のレベルの違いを教えてください。

A: 「英語初級 I」は初歩的な文法の確認に始まり、簡単な読解等を行います。
「英語中級 I」は再度基礎的な文法を確認しながら、クラスによっては仮定法などの難しい文法も習得します。また、細かい内容は開講する教員により異なります。

Q2: 「英語演習 I a」と「英語演習 I b」を同時履修して単位を取ることは可能でしょうか。

A: 同時履修が可能です。計 8 単位までならば単位修得が可能です。

Q3: 1 年次で「英語中級」を履修し、2 年次で「英語初級」を履修することは可能でしょうか。単位としても認められますか。

A: 可能です。単位としても認められます。ただし、レベルを段階的に履修することが推奨されています。

Q4: 「英語中級 I」のみ修得していますが、音トレ開設の「実用英語(中級)」を取りながら「英語上級」を履修することは可能でしょうか。

A: 言語芸術開設の「英語上級」は、「英語中級 I・II」の両方の単位を修得済みでないと履修はできません。一方、音トレ開設の授業は、「中級」を履修せずに「上級」を履修することが可能かもしれません。音トレに問い合わせてください。

言語芸術開設の科目と音トレ開設の科目を組み合わせる場合は、細かい条件があります。各自よく注意し、不明なことがあれば言語芸術研究室に相談してください。

『履修便覧』はとても重要です。熟読しましょう。『履修便覧』には次の一文があります。

「履修に際しては、各自が履修便覧等をよく検討し、責任を持って計画を立て、必要な単位を修得すること。」

つまり、履修計画とは最終的に自分で確認し、自分で判断するものです。調べてもわからないことや不安な点は指導教員や各科・教員室に確認しながら、最終的には自身で責任をもって履修計画を立ててください。